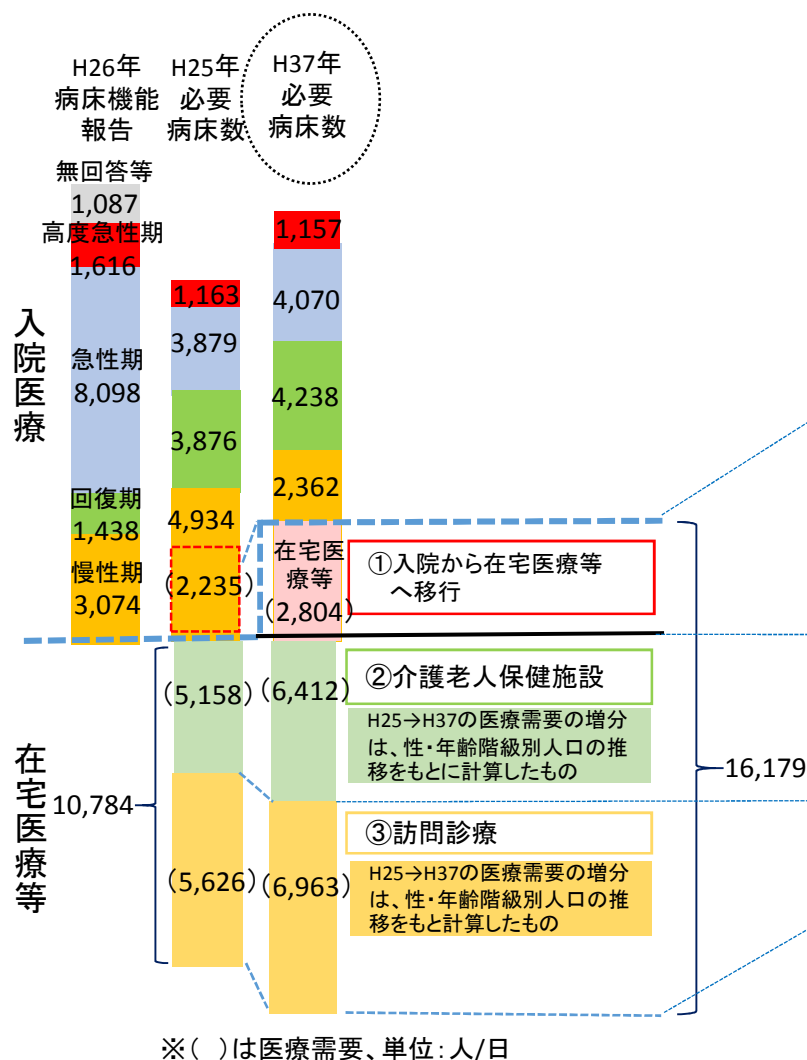


# 在宅医療等の確保の方向性

資料4-2

- 青森県地域医療構想では、平成37年における在宅医療等の医療需要を16,179人/日と推計している。
- 在宅医療等とは、居宅、有料老人ホーム、介護老人保健施設など病院・診療所以外の場所で提供される医療を指し、現在の療養病床以外でも対応可能な患者の受け皿となることを想定している。特に人口が分散しているへき地等を含む町村部については、病院周辺の介護施設への集約なども含め、地域の実情に合った在宅医療提供体制を検討する。

## 在宅医療等の医療需要の推計(全県)

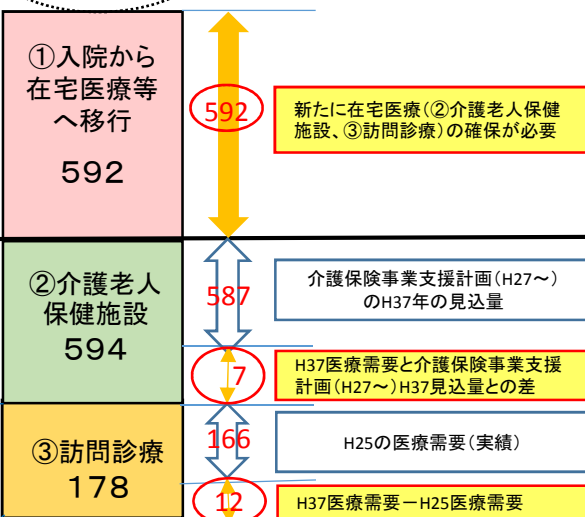


## 在宅医療等の医療需要推計(西北五地域)

### (西北五地域の特徴)

- 平成37年までに「入院医療から在宅医療等へ移行」(下図①)と推計される患者数が多い。  
→ 医療の必要度の比較的小さい(診療点数が低い)患者が多く入院している。
- 平成29年度末に廃止予定とされている介護療養病床が399床(4病院)と県内で最も多い。

### H37医療需要(西北五地域)



### H25→H37の医療需要増加分611人/日の対応方策

- (1) 介護老人保健施設の整備
- ①施設整備
  - ②介護療養病床の老健等への施設転換
- (2) 訪問診療
- ①自宅での在宅医療の提供
  - ②有料老人ホームやサ高住への訪問診療の拡大

計1,364のうち、新たに在宅医療の確保が必要な量

単位(人/日) **計611**

(注)      は、新たに在宅医療確保が必要となる部分

# 在宅医療等の確保の方向性～各主体がどの問題にどのように取り組むべきか～

## 1. H25→H37(在宅医療等の医療需要)増加分(611人/日)への対応方策

- (1) 介護老人保健施設の整備
- (2) 介護療養病床の老健等への施設転換
- (3) 自宅での在宅医療の提供
- (4) 有料老人ホームやサ高住への訪問診療の拡大

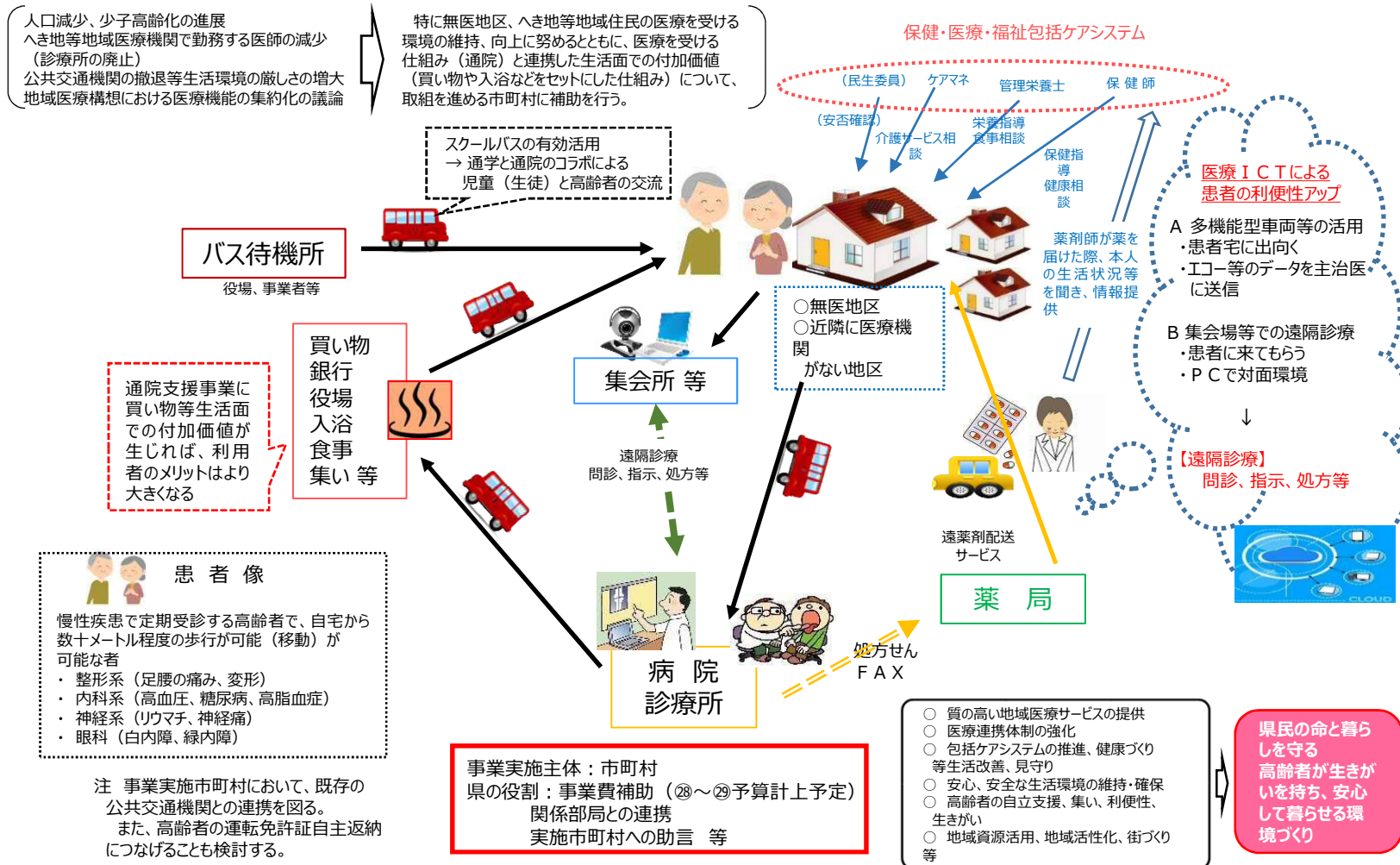
## 2. 各病院が在宅医療等に取り組むためには何が必要か

- ① 24時間体制の訪問看護ステーションの増加
- ② 24時間対応の介護事業者の増加
- ③ 在宅患者訪問薬剤管理指導を実施する薬局の増加
- ④ 病院の近くに在宅医療等の対象となる有料老人ホーム、サ高住を整備するなど在宅医療等の提供側・受け手側双方の都合を考慮した街づくり
- ⑤ 点在する住居を街の中心部に集約するといった訪問診療を実施しやすい街づくり
- ⑥ 遠隔医療を実施するためのICT環境整備の促進
- ⑦ 入院から退院までのルール作り(弘前保健所の例)
- ⑧ 国検討の「医療機能を内包した施設系サービス」、「医療を外から提供する居住スペースと医療機関の併設」の制度化
- ⑨ その他

### 【参考】

- ①在宅療養支援診療所 : 地域において在宅医療を支える24時間の窓口として、他の病院、診療所等と連絡を図りつつ、24時間往診、訪問看護等を提供する診療所(西北五地域の施設数:5)
- ②在宅療養支援病院 : 診療所のない地域において、在宅療養支援診療所と同様に在宅医療の主たる担い手となっている病院(西北五地域の施設数:0)
- ③在宅療養後方支援病院 : 200床以上の病院で、在宅医療で急変した患者の入院受け入れ体制を持ち、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院を、後方で支える役割を発揮する。(西北五地域の施設数:1 つがる総合病院)

## 【へき地等地域医療を支援する事業のイメージ図】



## へき地等地域医療支援事業（取組の方向性）



### 【現状と課題】

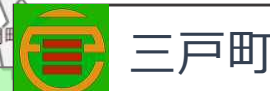
- ✓ 海岸線約70kmに沿って集落が点在。
- ✓ 町立の関診療所（大戸瀬）及び岩崎診療所（岩崎）民間立の深浦医院（深浦）があり、町立診療所は深浦地区に集約の方向。
- ✓ 医療機能の集約（新診療所の整備、岩崎診療所の廃止、関診療所の出張診療所化）を進める上で、自ら移動手段を持たない患者らの送迎体制の充実が不可欠。
- ✓ 地域の商店等の閉店により高齢者等の買い物支援も課題。

### 【取組の方向性】

- ✓ **患者送迎用バスやタクシーの活用等**により、町内の患者輸送をはじめとした移動支援体制の充実を図っていく。

### 【期待される効果】

- ✓ **医療機能の集約に対応、買い物利便性の向上に期待**  
→患者輸送＋買い物支援等生活に密着した交通体制の整備で、安心して医療を受けられる環境、生活上の利便性を確保



### 【現状と課題】

- ✓ 中山間部に無医地区等が点在。
- ✓ 三戸中央病院がへき地医療拠点病院として、無医地区等への巡回診療を実施、町内を中心に訪問診療、訪問看護を展開。
- ✓ 無医地区等では、人口減少、高齢化の進行により、通院困難な患者や、退院後の在宅生活に不安を抱える患者（世帯）が増える可能性がある。

### 【取組の方向性】

- ✓ **多機能型車両の活用**により、巡回診療、訪問診療等在宅医療の充実を図っていく。

### 【期待される効果】

- ✓ **通院困難患者や、退院後の在宅生活に不安を抱える患者に対応**  
→住み慣れた地域で安心して医療を受けられる環境、生活上の利便性を確保

